

Hokuen

北 縁



清水寺

十夜法要のご案内

十夜法要とは、浄土宗の最も大切な経典の一つ「無量寿経」の中に、
「此に於て善を修すること十日十夜すれば、他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」

現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。

とあることに基づく法要です。

11月3日(月) 法要スケジュール

●午前 11 時～ 法話

…昼食休憩(お参りの皆様に用意しております)…

●午後 1 時～ 法要

※申込には同封いたしました振替用紙をお使い下さい。当日はこのように塔婆に水向けしていただきます



新善光寺の十夜法要は“ココ”に注目！！

- ・ **双盤念仏** ～長い節を付ける独特のお念仏を唱えます。
- ・ **太鼓** ～木魚ではなく太鼓でお経を読みます。本堂に太鼓の音が響き渡ります。
- ・ **雅楽** ～入堂・退堂時に吹きます。優雅な音色が広がります。
- ・ **回向** ～和讃(歌)を唱えてそれぞれお申し込みのお戒名を一霊位様ずつ丁寧に読み上げてご供養いたします。
- ・ **解説** ～法要ではモニターでスライドを使いお経を解説しながら進めます。

札幌市内近郊の16ヶ寺のご寺院様に参列いただき、見どころの非常に多い法要になっております。是非お参りください。



本堂での法要の様子



十夜法要を初めておこなった真如堂

法話

いのちを尊ぶ^{とうと} ～今こそ、法然上人のみ教えを～

しずなが しはん
静永 史範 師

伊賀教区柘植組^{つげ} 徳永寺^{とくえい} 住職

本年の法話は三重伊賀市より静永史範師に来ていただき、この現代社会において忘れがちな、「いのち」の大切さをお話いただきます。



昭和 25 年 10 月生まれ

昭和 49 年 立教大学法学部卒業

昭和 49 年～平成 11 年 公立中学校教諭

平成 2 年 徳永寺第 17 世住職就任

平成 11 年～ 総本山知恩院サラナ親子教室主幹

平成 14 年～ 17 年 伊賀教区教化団長

平成 15 年 総本山知恩院・大本山増上寺布教師 拝命

平成 22 年～ 伊賀教区布教師会会長

平庸山 無量寿院 徳永寺（三重県伊賀市柘植町 2318 番地）

HP：http://www.ict.ne.jp/users/tokueiji

しんくんい が ご
神君伊賀越え

（神君とは偉大な君主を称えて呼ぶ名である。江戸時代には徳川家康を意味した。）

日本史上最も有名なクーデターであろう本能寺の変。織田信長を討ち討った明智光秀に次の標的として狙われた徳川家康は、その時わずかな近臣のみを連れて大阪の堺に滞在中だった。寄る辺ない他国から領国の三河へ避難するために家康は主要街道を選ばず間道へ逃れた。

徳永寺はこの大事件の舞台の一角を担う。鈴鹿山脈の加太峠という難所を目前にひかえ、さらに様々な利害が錯綜し敵となるか味方につくかが読みきれない伊賀の地侍たちに囲まれた時、一行を匿い、ひとときの安息を供したのが徳永寺の開山・西誉崇徳上人であり、檀徒である豪族の一派が家康に助勢し、ここで脱出の謀議を凝らしたのである。

後年、この生涯最大の危機を救った者達には、家康公から手厚い恩賞が与えられる。葵紋の使用が許され、広大な寺領が下賜された。この天下一の庇護を受けてより、寺号は

「徳川よ永遠なれ」という意味を込め、**徳永寺**と変えられたと伝えられる。

（総本山知恩院機関誌「華頂」より抜粋）

※家康公、最大の危難と言われる「伊賀越え」と徳永寺とのかかわりについては、NHK テレビ『歴史への招待』（1983 年放映）・『その時歴史は動いた』（2005 年放映）等でも紹介されております。

りんじゅう と 臨終のよしあしを問わず

お月さまが夜空に映える季節になりました。秋は、なんとなく哀愁を感じさせてくれます。暮れゆく秋に、自身または親しい人の散り際を重ねるからでしょうか。



真如堂（京都市左京区）の紅葉

裏を見せ 表を見せて 散る紅葉

私たちの命とは、もっとも私たちに身近なものでありながら、自身の思うようにいかないものです。美しく完璧な最期を迎えたいと思っても、人前にさらしたくない姿“裏”を見せたり、また、人に披露したくなるような自身の好ましい姿“表”を見せたりしながら、私たちは終焉を迎えていくのではないのでしょうか。それが、自然な姿であり、ありのままの姿であると、この句は教えてくれているように思います。

法然上人（1133～1212）は、「往生浄土用心」の中で次のようにお示くださっています。「日ごろから南無阿弥陀仏と称え、心から極楽に生まれたいと願っている信心深い人でも、命が終わるときには煩いがあり、見たいと思うものも見えず、伝えたいと思うこともうまく言えなくなってしまうのが臨終の姿です。これが人間の自然な姿であり、性なのです。しかしながら、どんな死に方になろうとも、息をひきとる時には、阿弥陀さまが極楽から迎えに来てくださり、やすらぎを得て、すみやかに悟りの世界である極楽浄土に生まれることができるのです。臨終というのは、1本の髪の毛の筋を切り分けるような繊細で厳粛な一瞬の出来事なので、当人以外の方がとやかく言うべきではありません。心を静めて、阿弥陀さまと亡き人との思いを知ることが大切です。」（取意）

ところで、法然上人は9歳の時、父の臨終にあっています。当時、法然上人の父は押領使という官職にあり、古くから地元を私的に統治していた預所という役職と政治的に関係が良くありませんでした。土地の二重支配がその原因でした。ある日、そのいざこざから、法然上人の家が夜中に襲撃されました。その際、父が傷を負って、命を失うのです。法然上人は、人が人を傷つけ合う惨状を目の当たりにしたことでしょう。その体験に思いを馳せるとき、「往生浄土用心」の言葉が、深く心に染みわたります。



あだしの 化野念仏寺（京都市右京区）の紅葉

臨終が“裏”になるか、“表”になるか、心配することよりも、今を生きると紅葉がそっと私たちに教えてくれているのかもしれない。

（文：立花俊輔）

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑧

〈親と子のすがた〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



お浄土の愛しい諸霊が、此岸しがんの私達の元に還ってくるお盆が終わった。どんな思いを抱きながら見守ってくれたのだろうか。迎える私達は、少しでも長く居て欲しいと願い、ナスビを牛に見たてる古い風習にその思いを託す。

長男も何度目かの里帰りだった。通い慣れた小学校や中学校、裏の三角山や横の発寒川の流れも変わってはいなかっただろう。しかし、我が家に残されたあなたの小学記念樹の栗の高さに驚いたに違いない。他にも、次男の息子達二人のブルーベリーとプルーンの樹が加わり、狭い庭が一杯だ。三十余年の歳月の印だ。

今年も納骨堂で多くのお檀家さん達との仏縁を頂けた。特に、初盆の家族が多かった気がする。参拝者が、重なるように列んでいるので、直ぐに解る。N家さんもそうである。今年の春、独り住まいの八十歳のお父さんの最期を看取れないままの別れだった。この現実には大きな悔いが残った娘さん。お勤めをさせて頂いたある日、「私、不幸しました。父独りで淋しかったと思います。恨んでないでしょうか」と問われた。溢れる涙を見て、即答できなかった。幸い、次の週に再会できたので、『父母恩重経』のみ教えを伝えた。このお経は、父母への十の恩について、お釈迦さまが説いたもの。中心は、恩を施す施恩と、恩を知る知恩である。父母の恩は、山よりも高く、海よりも深いの通り無限である。私達、凡夫が到底返すことができないと慮おもんばかって、お釈迦さまは返す必要がないと示して下さいました。むしろ、今生きていることの恩をしっかり自覚する大切さを強調している。古語で【クリタジュニヤター】と表現する恩は、感謝とも訳される。Nさんの申し訳なさが、楽になるよう切望する。

ところで、この盆期間中、このエッセイを読んで下さっている何人かの方より、「なんでタイトルがズッコケ…なの」と声を掛けられた。毎回、亡き息子の内容が多いので、奇妙に思うのだろうか。当の本人は、全く気にならない。師僧曰く、このエッセイがズッコケではなく、私自身がズッコケなそうである。

敢えて自己紹介をさせて頂けるのなら、生来、せっかちで気が短いので、“ズッコケ”の概念の早とちりで的はずれな行いをする・つんのめってこける等にピタリと当てはまる。話を正確に伝えられずに、よく師僧より注意される。寺務所内でも迷惑をかけている。また、ちょいちょいずっこけて転ぶ。雪道でなく、アスファルト道では大変。膝の傷は、深く痛さも続く。関心を伝えて下さった善女子の方、感謝。これからもズッコケ街道を阿弥陀仏のお念仏を布教し続けて歩みたいと願う。

合掌

“親思う 思いも親の思わする 思いと知って 親思うかな”

シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑤

今回で序分は終わります。「懺悔偈」のはなしをしたいと思います。

・懺悔偈

「懺悔偈」の「懺悔」は「さんげ」と読みます。現日本語では「ざんげ」と読むのが一般的です。「懺悔」と聞くとキリスト教のそれをイメージする方が多いと思います。キリスト教では「ざんげ」と発音しますし、テレビドラマでも神父様などに懺悔をするシーンを放映する機会も多いですよ。

一般的な「懺悔」の定義は「神仏や聖なる対象の前で犯した罪の告白をし、悔い改めること」です。図1に偈文と鈴の打つ位置を示します。

漢文を例によって書き下しにしてみます。「我昔より造る所の諸の悪業は皆無始の貪瞋痴に由る身語意より生ずる所なり一切我今皆懺悔したてまつる」(意識：私が今まで造ってきた様々な罪は、生まれる前からの貪り、瞋り、痴さがもとになって、身体、言葉、意識に表れた事なのです。今そのすべてを悔い改めます。)意識を見ていただくと内容をよくお解り頂けるかと思います。

仏教では「輪廻転生」という世界観があるため、犯した罪は現世のみならず前世の罪なども含まれます。それらの罪を仏前で懺悔するため唱える偈文が「懺悔偈」です。中に出てくる「貪瞋痴」という言葉は「三毒」とも言われ、仏教教義にはよく出てきます。「貪り(欲深い)・瞋り(憤り)・痴さ(愚痴)」の事で、罪を犯す根源と言われていています。また、「身語意(身口意とも表現することがあります)」は「三業」と言い、「身業(悪い行い)・語業(悪い言葉)・意業(悪い考え)」から人は罪を犯していくとの教えです。

「懺悔偈」を唱えることにより、過去世(前世)の罪はともかく、今悔い改めなければならないことを阿弥陀様に懺悔し、おつとめの序分の最後とします。

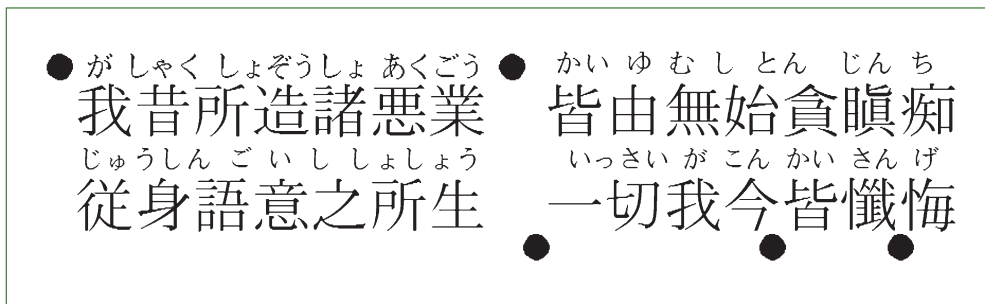


図1

● : お鈴の打つ場所を指します。

・十念

次第では「懺悔偈」を唱え終わった後、お十念をお唱えします。「十念」は北縁第24号の「おつとめのはなし②」で言及していますが、復習してみましょう。

「南無阿弥陀仏」のお念仏を十遍お唱えするのが「お十念」ですが、その発声の仕方は「ナムアマダブ」と最後の「ツ」を発音せずのみこむように発声します。一唱目の「南無阿弥陀仏」から八唱目までは「ナムアマダブ」と唱え、九唱目だけ「ナムアマダブツ」と発声します。最後の十唱目は「ナムアマダブ」と発声します。息継ぎに関してですが、通常は「四遍・四遍・二遍」に分けて、計「十遍」となります。お唱えするリズムは、お寺にお参りに来られた際、または御自宅に僧侶がお参りに伺った際にそのお勤めを聞いて頂いて覚えて頂くのが一番解りやすいと思います（一度聞けば、どなたでも出来るようになります）。

お十念の際には、鈴や木魚等の鳴らし物は使用しないので合掌し姿勢を正してお唱えするようにします。

・序分のまとめ

ここまで浄土宗「日常勤行」の「序分」のおはなしを、第25号より3号に渡って話してまいりました。いかがだったでしょうか？

簡単に復習すると、香偈によって身心を浄らかにし、仏法僧の三宝を敬い、仏様を勧請（お迎え）して自らの罪濁を懺悔する。ということをお勤めの中で行ったこととなります。そして、いよいよお釈迦様のお言葉である「お経（経典）」をひも解いて読んでいく「本分」に進んでいきます。

次号から「本分」のおはなしをしたいと思います。

〈東京別院・霊源寺〉

霊源寺の納骨堂が産経新聞出版の「就活読本ソナエ」2014秋号に紹介されました。

東京在住で新善光寺納骨堂をお持ちのお檀家様が霊源寺納骨堂に移されたこともございます。また、東京近郊にお住まいのお檀家様におかれましては法事やお盆参りやご命日のお参りも受け付けております。是非、ご気軽にご相談下さい。

霊源寺（住職：太田 眞琴）
東京都品川区荏原1丁目1番2号
（桐ヶ谷斎場向かい）
TEL03-3494-1083 <http://reigenji.konjiki.jp/>



【新善光寺物語⑧】

火事で焼けてしまった本堂再建に懸ける——④

五重相伝会

今までの連載では、本堂焼失のあと檀信徒の信頼を取り戻し、お寺を復興するために骨仏造立・寒修行のことを書いてきましたが、まだまだおこなっていたことがあります。骨仏完成慶賛法要の時に仮本堂を建立し、当時葬儀はいつもその仮本堂でおこなわれていました。先代住職太田隆賢が願うところは、新しい本堂をただ建てるだけでなく如何に離散していった檀信徒を再び寺に呼び戻すか…。その一つの試みが昭和28年に五重相伝会を開催したことです。



外から見た仮本堂

この五重というのは、浄土宗にとって最大の重要な行事で、教えの真髓や奥義を伝えるもので関西地方ではよく行われていましたが北海道ではめったに行われたことはありませんでした。昭和28年大本山増上寺・椎尾弁匡台下ご親修のもと、五重相伝会が開かれました。その台帳の中には明照婦人会・顧問の大室スミ様の名前もあります。

この思い切った行為によって多くの檀信徒が少しずつお寺に戻ってきたのです。正直なところ、住職就任当時、「新善光寺」は、お寺としての信用が全くありませんでした。その信用を取り戻すということは、大変なことだったのです。

余談ですが、この五重相伝会は次に昭和56年に創建100年記念事業として客殿・南側庫裏新築落成と共に行われました。次回はそのことについて書きたいと思います。



仮本堂の中の様子



五重相伝の様子

慈啓会から

慈啓会ふれあいの郷 ～養護老人ホーム・生活支援ハウス～

手稲区にあります「ふれあいの郷」には定員 100 名の養護老人ホームと定員 20 名の生活支援ハウスがあります。

ふれあいの郷では今、収穫シーズンを迎えています。5月初旬から土作りがはじまり、毎日沢山の愛情を注がれた苗たちは、鈴生りのミニトマトや、収穫が追いつかないほどのキュウリを実らせています。先日は、採れたてのトウモロコシで収穫祭を開きました。畑作業は、植物を育てる楽しみもさることながら、入居者同士のおしゃべりや、通りがかった近所の方との交流等、大切なふれあいの時間となっています。これからは、色とりどりの菊の花が畑を彩ります。



(2枚の写真は、同じ場所で撮影されました。)

また、畑の隣にはゲートボール場があります。毎週のクラブ活動で練習を重ね、地域のゲートボール大会では好成績を収めました。当施設主催のゲートボール大会も 11 回目を迎え、地域との交流を深めています。昨年からは拓寿園との交流試合もはじまり、入居者同士「楽しかったね。また来年、それまで元気でね！」と労りあいました。

屋外だけでなく、2階にある地域交流センターも賑やかです。地域の方々にも無料で開放しており、社交ダンスの練習や手稲区子育てサロン等幅広い世代にご利用頂いています。どの団体も、「施設の方もどうぞ。」と声を掛けて下さいます。さらには交流センター利用がきっかけで、地域の方がボランティアにご協力下さり、見学していた入居者が地域サークルに入会する等、その名の通り「交流」の輪が広がっています。



施設を利用して下さる全ての方が、日課や趣味を大切に、充実した日々を送って頂けるよう職員一同願っております。今後もより多くの方にふれあいの郷をお役立て頂ければ幸いに存じます。

お問い合わせ

慈啓会ふれあいの郷養護老人ホーム

生活相談員 小林・東

〒006-0835

札幌市手稲区曙5条2丁目2-17

TEL : 011-682-1821 FAX : 011-685-6611

Email : suzukisw@abeam.ocn.ne.jp

しろいし幼稚園から

感謝の気持ち、思いやりの心

10月に入り、過しやすい季節となりました。とんぼが飛び交う秋の空の下、子ども達はシャボン玉やかけっこ…好きな遊びを選び、すがすがしい気候の中元氣いっぱい過ごしています。

さて、9月15日は敬老の日。お孫さんと楽しい時間を過ごされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しろいし幼稚園では5月の母の日や6月の父の日等、これまでもプレゼントを作り感謝の気持ちを表す活動を行ってきました。そこで、今回の敬老の日に向けて「大好きなお爺ちゃんお婆ちゃんにもプレゼントを渡したい!」と瞳を輝かせた子ども達。それぞれ思いが詰まった素敵なプレゼントを作りました。

また、年長組は関連施設でもある慈啓会の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・老人保健施設を訪問し歌や踊りの出し物や、利用者さんと手を繋いでゲーム等を行いました。自分のお爺ちゃんお婆ちゃんではなくても「しわしわのおててあったかかったよ」と心が繋がった様です。

ご先祖さまからの大切な命のつながり。感謝の気持ち、思いやりの心をもった子どもたちをこれからも育てていきたいです。 (しろいし幼稚園 副主任 小野寺)

平成 27 年度新入園児募集

入園願書配布 10月15日(水)～ 入園願書受付 11月1日(土)～

保育見学も行っております。お気軽にお問い合わせください。

新善光寺学園 しろいし幼稚園 札幌市白石区平和通1丁目南6-16 ☎ 011-861-4426 Fax 011-866-0707
URL : <http://www.ans.co.jp/k/siroisi/> Email : siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp

《宮の沢別院から》

宮の沢別院では来年の1月2日に修正会並びに新年大祈願法要を行います。詳細は同封のチラシをご参照ください。どなたでも参加可能ですので新しい一年の幕開けに是非お参りください。

どんりゅう上人伝② 「出家～修行の旅へ」

両親から僧侶になることを許された竜寿丸(どんりゅうさま)は、永禄12年3月、浄土宗のお寺に入り、僧侶になるため毎日、毎日修行に励むことになりました。こうして憧れのお坊さんになる修行を始めた竜寿丸は、お寺の住職から「曇竜」という名前をもらいました。(注:のちに呑龍という字になる)竜寿丸14歳の時でした。お寺での勉強に励む曇竜を見た師である住職は、僧侶としての才能と学力が他の弟子たちよりも秀でていることに気がきました。毎日のように仏教の中でも、かなり難しい内容を直接教えたり、一緒にお念仏を称えたりしました。そして住職は、関東では最高の学問所であった江戸増上寺に曇竜を入れる決意を固めたのでした。



随時見学可能です。是非お問い合わせください

TEL 011-668-5110

札幌市手稲区宮の沢5条1丁目19-35

— お檀家タウンページ ~ともいき訪問④—

すき焼き・しゃぶしゃぶ「牛のいしざき」

今回はお寺から歩くこと数分、南3条西3丁目Gダイニングビルというおしゃれなビルの3階にお店を構えます老舗「牛のいしざき」様に行ってきました。

こちらのお店はお檀家様であります石崎行希雄様のご長男が経営されているお店で、創業は昭和47年、今年で42年目を迎える札幌でも屈指のすき焼き・しゃぶしゃぶの名店です。大女将の石崎恵子様にお話を伺いましたら、創業以来36年すすきののグランド太陽ビルにありましたが、2008年にこの場所へ移られたそうです。

提供されるお肉は江別市の契約牛舎で飼育されている「えぞ但馬牛」で、すべての工程を管理し、徹底的に品質にこだわっているとのこと。目の前でお給仕をしていただきましたすき焼きは口の中でとろけるような最高の食感でした。今回は女将の石崎里佳様に大変丁寧にご給仕いただきました。最高級のすき焼きをいただき大女将と女将のお人柄に癒される至福な時間でした。



とろけるような生ハム



調理前のすき焼き



すき焼き



大女将の石崎恵子さん



目の前でお給仕してくれます

大小様々な個室を完備しており、落ち着いた雰囲気です。夕刻お寺で法要を行い、その後に会食として伺うというようなスタイルも一考かと思えます。

また、二男様が第四藤井ビル（南4条西5丁目）で「あみ焼き割烹 和牛いしざき」を、三男様がニュー北星ビル（南4条西3丁目）で「ステーキ&ワインいしざき」をそれぞれ独立して経営をされています。

すき焼きしゃぶしゃぶ
牛のいしざき

札幌市中央区南3条西3丁目 Gダイニング札幌ビル 3階
TEL 011-251-8721 ホームページ：<http://gyu-ishizaki.jp>
営業時間 17:00 ~ 23:30
定休日：毎週日曜日（祝日の場合は営業）

職員を紹介します



まつお いっし
松尾 一志

昭和10年10月21日 広島県生まれ

私は両親を早くに亡くし、昭和21年から23年迄、九州佐賀で農業を営んでいた叔父の家に引き取られていました。農家の生活になかなか慣れず、何かと苦勞の絶えない生活でした。丁度その頃、叔父の家の菩提寺の和尚様から、「札幌の新善光寺で小坊主として修行してみないか」というお話がありました。子供ながらも色々熟考の末、新善光寺に入山することを決意、昭和23年(13歳の時)3月末に佐賀を離れ渡道いたしました。

当時の住職の弟子として入山したものの、わずか2年足らずの昭和25年に色々な事情により、師匠が住職を辞任するという事がありました。親の死、故郷をはなれ遠く札幌まで来て、ようやく落ち着いたと思った矢先の事でした。昭和26年2月、五世住職に就任された太田隆賢師の弟子にして貰って一安心したことを覚えています。当時私は16歳でした。本当に小僧さんから修行した15年間は大変辛い時期でした。平成4年9月30日に太田住職が遷化されるまでの約40年間、お傍で勤めさせて頂きました。

お付き合いの長いお檀家さんはよくご存じだと思いますが、若い頃からバイクで檀家参りをしていた事から、バイクが趣味となり今でも乗っています。目標としていた大型バイク「ハーレーダビットソン」のサイドカーも手に入れ



平成6年山門落慶式



傘寿記念に知恩院から頂いた賞状



昭和23年 得度式(お坊さんとしての最初の儀式)での一枚、姉と一緒に

て乗ることが出来ました。休日に仲間とツーリングに行くことが楽しみの一つでした。

お寺に勤めて60数年の年月を振りかえり、「石の上にも三年」のことわざにあるように、苦勞、我慢も多々あった中に現在の自分があるわけですが、その間皆様に支えられて頂き、現在まで勤めていただけることに感謝をしつつ日々暮らしております。現在は週3日出勤しています。これからも法務に専念していくつもりです。どうぞよろしく願い申し上げます。

職員を紹介します



の ざ き こ う し
野 崎 幸 史

昭和 25 年 1 月 30 日 現在の標茶町生まれ

寺の生まれではない私は 18 歳の時、進学の為札幌へ出て、祖父の家に下宿していました。大学卒業後、会社員をしていましたが、昭和 61 年 6 月ご縁があり法務員として採用して頂きました。僧侶の資格を取るため、宗門の京都仏教大学の通信教育を受講し、伝宗伝戒道場（加行）を満行して僧階（僧侶の資格）を取得しました。通信教育を受講していた頃は、レポートや試験の他、お勤めを覚える為、経文を書きながら、声に出して読みながら覚えていた思い出があります。通信教育では郵送でのやり取りの他、京都へスクーリングに行き、講義の他に実践仏教と称してお勤めの研修を行いました。当時、自分の家には仏壇すらなかった為、一般の方以上に仏事には疎く、このスクーリングに苦勞した記憶もあります。



平成 6 年山門落慶式で

初めて新善光寺へ家内と先代住職にご挨拶に伺った時、婦人会の担当を仰せつかり、現在もその担当をしております。入山当時の思い出は、婦人会の担当をしておられた北見上人（藤野 大松寺住職）に婦人会のことなど色々ご指導頂き、また外へお参りに出る事は少なく、今井上人（豊平 善道寺 先代住職）とよく内勤をしていた事。幼稚園の行事では、先代住職のおともで水族館やハイジ牧場などに行った懐かしい思い出もあります。



担当している婦人会で

趣味は旅行・読書・音楽鑑賞（映画音楽）などがあります。六年前から犬を飼っていきまして、朝散歩の後、コーヒーを飲みながら新聞を読むという日課を過ごしています。

この紹介文を書かせて頂くことに際して昔の事を思い出すと、入山してすでに三十年弱の年月が経った事を改めて噛みしめる良い機会になりました。新善光寺は北海道でも有数の大坊（大きいお寺）であり、お檀家様の数も非常に多いお寺です。三十年経ってもまだまだお話した事のない方も大勢います。お参りでお会いした時、是非お気軽にお声掛け下さい。

長野・善光寺団体参拝旅行のご案内

とお いちど まい ぜんこうじ はなあふ しなのじ はる
“遠くとも一度は詣れ 善光寺 花溢れる 信濃路の春”

宿坊に泊まる2泊3日の長野善光寺7年に一度のご開帳参拝旅行
平成27年4月21日(火)～23日(木)

7年に1度のご開帳を記念して新善光寺では初めて、長野への団体旅行を行うこととなりました。5年前の前回同様、慈啓会病院の看護師も同行し、移動も全てバス移動とご負担の少ないように考えております。是非、この又とない機会と一緒に善光寺へお詣りいたしましょう。

前回参加された方の声

「お寺の旅行は、関係者しか見ることのできないようなお寺の奥深くまでじっくりと見ることができるので、いつも参加させてもらっています。(女性)」

詳しい行程や料金は同封のチラシをご覧ください。又、申込は随時受け付けております。

同封の申込用紙からお申し込み下さい。ご不明な点やご質問は副住職まで



前回の旅行写真

鳴々川ノスタルジア 着物で漫ろ歩き

平成26年10月17日(金)～19日(日)

○鳴々川とともにススキノ歴史をたどる新イベント

鳴々川は、豊平川から幌平橋付近の水門で分岐し中島公園の西側を通ってススキノ南部へ。その後、北東へ向かい、南6条付近で創成川へと流れていきます。その長さわずか2.5km。

今秋この周辺の歴史を紐解くイベントが新善光寺と中島公園内の日本庭園で開かれます。

“寺町すずきの遊ぶ”新善光寺

- 10月17日(金) 19:00 …… 怪談朗読会 (チケット予約制)
大人 2,000 円、学生 1,000 円、
小学生未満無料
- 10月18日(土) 14:00 …… D. W. ニコルズ live
(入場無料)
- 18:00 …… 芸者衆の踊りを見る会(チケット予約制)
5,000 円
- 10月19日(日) 14:00 …… 鴨ノス寄席 (入場無料)
- 18日(土)～19日(日) …… 体験型講座 (活版印刷・墨絵・切り絵)
チケット予約制



鳴々川ノスタルジア

検索

そのほかにも古書市や野菜収穫市、“説法”や“お寺内覧ツアー”などなどイベント目白押しです。チケット・チラシはお寺にて取り扱っております。

また、ホームページやfacebookでも情報は随時更新しております。

北縁 なんでも Q & A

今回も紙面の許す限り、皆さんの質問にお答えしていきたいと思います。前回の投稿では、お檀家様のお孫さんから「子供向けの記事もあるとよい。」との投稿も頂きました。現在色々なシリーズ記事を掲載していますが、将来的に考えていきたいと思っています。

Q：北海道内の浄土宗のお寺について紹介して下さい。（東区のお檀家様）

A：浄土宗は全国の都道府県などで区分けした「教区」と呼ばれる地区分けをしています（多くの宗派が同様に教区として区分けしているようです）。北海道は「第一教区」「第二教区」と二教区あり、第一教区は80ヶ寺、第二教区は68ヶ寺あります。札幌市内は当寺の別院も合わせると11ヶ寺あります。今後の記事として、道内の主なお寺の紹介記事も現在検討中ですが、転居等で他の市町村内の浄土宗寺院をお探しだという方がいれば、お電話でお問い合わせ下さい。

〈仏教体感〉

この一年を振り返り年末に念仏を称えながら礼拝をして、身も心もきれいに祈念しませんか？どなたでもご自由に参加いただけます。

仏名会（ぶつみょうえ）

日程：12月11日（木）

時間：13：00～（30～40分の予定）

法話（お坊さんによるお話し）5～10分

法要 法話の後すぐ始めます

参詣の皆様にはお坊さんと一緒に無理のない範囲で礼拝（立ったり座ったりします）をしていただきます。



除夜の鐘をつき、この一年を省みて煩惱を除き、清らかな心になって新しい年を迎えませんか？

- ・ 撞いてくれた方には絵馬を進呈します
- ・ 休憩所には甘酒のサービスもあります

除夜の鐘

日程：12月31日（水） 時間：23時45分頃～
整理券をお配りしています、混雑状況によりご家族皆さんで撞いてもらう場合もあります。



 YouTube

“新善光寺 除夜”
（昨年の様子を公開しています。）

〈行事予定〉

10月17日(金)~19日(日)	鴨々川ノスタルジア
10月23日(木)	明照婦人会・秋のレクリエーション
11月3日(月・祝)	十夜法要
12月11日(木)	仏名会
12月31日(水)	除夜の鐘
1月2日(金)	修正会(新年のお参り)並びに新年大祈願法要 ※宮の沢別院でおこないます

納骨堂をちょこっとリフォーム

今年の7月、納骨堂3段タイプの扉の金具を新しくしました。これで一段・二段と全ての納骨壇の金具がきれいになりました。納骨堂のことについて空き状況は随時変わりますので、電話またはメールよりお問い合わせ下さい。

(担当：副住職)



行事報告

・お寺deコンサート

札幌市中部仏教会主催の「お寺 de コンサート」が9月17日に新善光寺でおこなわれました。幻想的なライトアップの下、宝塚歌劇団出身の純名里沙さんの歌声が本堂に響き渡りました。おかげさまで多くの皆様にご来場いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



編集後記

今回は情報盛り沢山の寺報になりました。今年は7月のチャリティーコンサートに始まり、9月のお寺 de コンサートそして、10月は鴨々川ノスタルジアと定例行事の他にイベントが多い年です。そして来年4月は長野善光寺への団体参拝旅行をおこないます。年内に長野へ下見に行きたいと思っていますので次号は特集記事として紹介する予定です。情報は随時ホームページ・ブログ・twitterでもアップしていきますので、よろしければご覧下さい。次号は1月初旬の発行予定です。(海)